

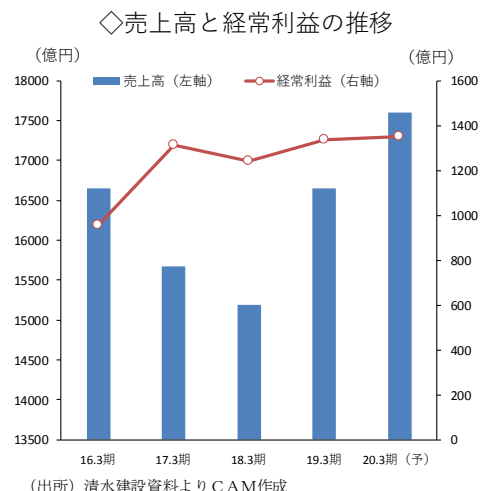
企業ニュース 清水建設

(東証1部: 1803) <https://www.shimz.co.jp/>

作成者: 荒木晶子

株主還元における取り組みに注目

首都圏の民間建築を主力とする大手ゼネコンの一角。19.3期の決算と同時に、2030年度までの長期ビジョンと、それに向けた先行投資期間という位置づけの2019～2023年度中期経営計画を発表した。連結経常利益は、2023年度に1,400億円、2030年度に2,000億円以上を目指す。中期経営計画においては、主力の建設事業で安定的な収益基盤を維持しつつ、不動産開発などの非建設事業の育成による収益力の向上で持続的な成長を図る。また、資本政策では、連結配当性向の目安を30%としたほか、政策保有株式の段階的な縮減に言及した。売却代金の一部で自己株式を取得する方針であり、株主還元姿勢の変化が評価されよう。



19.3期は土木の利益率改善が寄与し増益

19.3期の連結業績は、売上高が1兆6,650億円、前期比10%増、営業利益が1,297億円、同7%増。計画に対して、売上高は1,250億円の未達だが、営業利益は67億円上振れた。単体の完成工事総利益率は12.8% (建築11.6%、土木16.7%)、前期比0.4ポイント減となったが、計画の11.4% (建築10.8%、土木13.5%) は上回った。単体の受注高は1兆7,255億円、前期比15%増。第4四半期(1-3月)に、虎ノ門・麻布台地区の再開発工事を受注したことが寄与した。1株当たりの年間配当金は36円とし、前期の26円から10円増配する予定。

20.3期の通期会社計画は、売上高が1兆7,600億円、前期比6%増、営業利益が1,320億円、同2%増。単体の完成工事総利益率は12.2% (建築11.7%、土木14.0%)、同0.6ポイント低下するが、増収効果で増益を確保する見込み。設計変更に伴う追加工事の寄与は織り込まない計画であり、保守的な印象である。単体の受注高は前期の反動もあり、1兆3,000億円、同25%減を計画している。

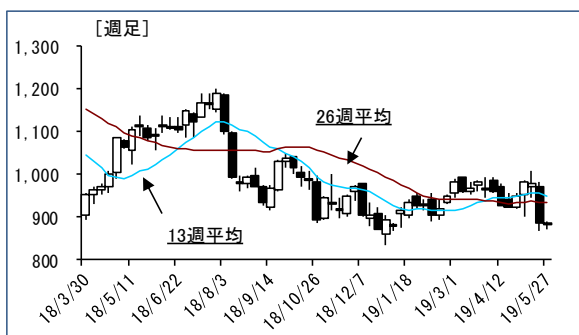
[株価動向・投資判断]

堅調な業績と積極的な株主還元姿勢は評価余地があろう。不動産開発や環境エネルギーなど、非建設事業の早期育成が持続的な成長の鍵となろう。

<1803 清水建 業績: 日本基準>

[今期予想の配当金は発行会社予想]

	売上高	営業利益	経常利益	当期利益	1株利益	1株配当
	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	円	円
18.3	1,519,435 (▲3)	121,373 (▲6)	124,130 (▲5)	84,978 (▲14)	108.3	26.00
19.3	1,664,960 (10)	129,724 (7)	133,957 (8)	99,668 (17)	127.0	36.00
20.3 予	1,760,000 (6)	132,000 (2)	135,000 (1)	95,000 (▲5)	121.1	36.00



[主要株価指標] (売買単位: 100株)	
株価 (2019/5/27)	885 円
年初来高値 (高値日)	1,008 円 (19/5/14)
同 安値 (安値日)	867 円 (19/5/24)
予想 P E R (20.3 予)	7.3 倍
1株株主資本 (PBR算出用)	929.7 円
P B R	0.95 倍
予想配当利回り	4.07 %
(1株当たり配当金年36.00円)	
R O E (19.3)	14.4 %
発行済み株式数	78,851 万株